

令和6年度 学校目標

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	○ 幼稚部から高等部にかけて系統立てた指導の実施により、社会で豊かに生きていくための基礎学力とコミュニケーション力を身につける。	① カリキュラムマネジメントの推進と、実態把握に基づく個別教育計画の作成および実践により、幼児・児童・生徒の基礎学力やコミュニケーション能力の向上を図る。 ② 学校生活全般で一人一台端末を活用し、視覚的支援の充実を図るとともに、情報モラルの教育にも取り組み、個々の資質・能力の育成を図る。	① 一人ひとりの実態把握や、より良い課題提示、習得の方法を検討し、個別教育計画に基づいた授業実践を行う。 他学部の研究授業や研究協議への参加を通して、学部間の系統性の理解を促進する。 幼稚部から高等部までの自立活動の系統的な指導実践を行うため、手話力、日本語指導力、聴能理解を高めるOJTを行う。 ② 一人一台端末を活用した授業づくりを進めるために、機器に関する情報共有や研修体制を整える。 情報モラルに関する指導を充実させ、ICTの積極的な活用を図る。	① 実態把握や適切な課題設定を行い、個別教育計画に基づいた授業実践を行ったか。 研究授業を行い、授業力向上を図ることができたか。また、他学部の研究授業や研究協議に参加し、学部間の系統性を整理することができたか。 手話力、日本語指導力、聴能理解を高めるOJTを行うことができたか。 ② 一人一台端末に関する情報共有や研修体制を整え、ICTの積極的な活用を図ることができたか。 情報モラルに関する指導を推進することができたか。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	○ それぞれの実態を十分把握し、ニーズに応じた指導・支援を行うとともに、集団活動を通して、協調性や思いやりの心を養い、自己肯定感を高める。	① 配慮の必要な幼児・児童・生徒の健康と安全を守るとともに、一人ひとりのニーズに応じた支援を行う。 校内で起こる様々な事案に対し、機動的な対応で解決を目指す。 ② 個別の指導と様々な集団活動を通して、互いの良さを認め合う機会を持ち、自己理解や自己肯定感を高める。	① 関係職員とケース会を設定して情報共有を図り、見立てや具体的な支援策の検討を行い、実行する。併せて効果の検証を行う。 事案が生じた際は関係部署が連携して、速やかで適切な対応により解決に導く。 ② 学部学年を越えた集団活動や部活動(文化的活動・体育的活動)を通して自己肯定感を育み、協調性や社会性を養う。	① 指導上必要な配慮を行い、健康と安全を守ることができたか。また、適切な支援を行うことができたかを具体的な成果から検証する。 事案が生じた際は関係部署が連携して、速やかで適切な対応により解決に導くことができたか。 ② 集団活動を通して、互いの良さを認め合い、自己肯定感を高めることができたかを行動変容等から検証を行う。
3	進路指導・支援	○ 幼児・児童・生徒・保護者のニーズを受け止め、職業観を育み、主体的な進路選択ができるよう指導・支援する。	① 幼稚部から高等部の各段階において、個のニーズに合わせた課題設定や体験的な学習を通し、主体的に進路選択できる力を育む。 ② 進路選択に必要な情報を提供するとともに、ニーズに応じた適切な支援を行う。	① 各学部の活動に将来の進路選択につながる具体的な視点を取り入れ、教育内容や指導方法の充実を図る。高等部においては、地域の企業や大学等と連携し、見学や実習を行う。また、卒業生など聴覚障害のある社会人と接する機会を設定することにより、意欲と心構え育て、それぞれに必要な支援を行う。 ② 進路だよりや学習会などを通して保護者等への情報提供を行い、適切な進路指導・支援を行う。	① 各学部の活動に将来の進路選択につながる具体的な視点を取り入れ、教育内容や指導方法を充実させることができたか。 適切な職業観や進学に向けた意欲を育成することができたか。また、個のニーズに応じた支援を行うことができたか。 ② 進路選択をしていくうえで、必要な情報を適切に提供することができたか。
4	地域等との協働	○ 「ともに生きる社会」の実現に向け、地域における支援教育に関する専門性の向上を図るとともに、地域との協働による活動を進める。	① 関係機関との連携を図り、ニーズに応じた相談支援を推進する。 ② 切れ目のない支援体制の構築に向けて、地域の支援力向上のための情報発信や支援を充実させる。 ③ 交流及び共同学習、その他、様々な場面を通じて学校外の人と活動することにより、人との関わりを広げる。	① 病院や福祉機関との情報交換を計画的に行い、支援ニーズの把握と支援策の見直しを行う。 ② 地域で学ぶろう難聴児の指導と支援の充実につながる情報発信や支援を行う。 ③ よりよい交流および共同学習のあり方を交流先と十分に検討し、実践する。また地域からのオファーと校内のニーズをつなげ、地域の人と一緒に活動する機会を増やす。そのことにより、子どもたちの人と関わる力の向上を図る。	① 関係機関と計画的に連携し、ニーズに応じた相談支援を推進することができたか。 ② 地域で学ぶろう難聴児の指導と支援の充実につながる情報発信や支援を行うことができたか。 ③ 各学部の実態やねらいに合った、よりよい交流及び共同学習のあり方を交流先と十分に検討し、計画的に実施することができたか。 様々な活動を通して、子どもたちの人と関わる力の向上につなげることができたか。
5	学校管理 学校運営	○ 安全で安心できる指導・管理体制の整備を進め、学校の危機管理能力を高める。 ○ 教員のワークライフバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。	① 保護者との連絡体制を含め、非常時を想定した実践的な訓練等の取組を推進する。 ② 幼児・児童・生徒と向き合う時間を確保する方策を検討し、時間を生み出すことで、適切な支援につなげる。	① 「マチコミメール」を効果的に活用して情報発信するとともに、実効性のある緊急対応訓練を行い、より効果的なものとする。突発的な事案に的確に対応し、必要な情報の発信を行う。 ② Teams等を活用して資料を提示するなどの工夫を行い、ペーパーレス化、会議の効率化を目指す。また、さらなる業務改革の検討を行う。	① 非常時を想定した体験的で実効性のある取組を推進することができたか。事案に対応した必要な情報の発信を行うことができたか。 ② 会議時間を短縮し、幼児・児童・生徒と向き合う時間を確保することができたか。また、そのことにより適切な支援につなげることができたか。